

創作、自己翻訳、多言語生活

ブルガリアの若手詩人・作家を迎えて

——朗読とトーク——

日時 2017年4月17日（月）午後5時30分～7時

場所 東京大学 本郷キャンパス 文学部3号館 7F（スラヴ演習室）

* 予約不要、聴講自由。

講演者

アルベナ・トドロヴァ（詩人、翻訳家）

詩の朗読（ブルガリア語原文、日本語訳）と解説

——自己翻訳の難しさについて

（トークは日本語）

モムチル・ミラノフ（ジュネーヴ大学博士課程・教授助手）

現在執筆中の小説の抜粋（英訳）の朗読と解説

——自己翻訳と多言語生活について

（トークは英語）



*このイベントは公開ですが、大学院演習「ロシア文学批評(1)」(楯岡)の一環で行います。

ゲストのプロフィール

アルベナ・トドロヴァ Албена Тодорова

1983年旧ソ連マハチカラ市生まれ。翻訳家、詩人。2010-2011年東京大学現代文芸論に外国人研究員として滞在。2014年にデビュー詩集『stihotvoreniya』が「Ivan Nikolov」副賞受賞（ブルガリア最大詩集賞）。太宰治や村上春樹の作品をブルガリア語に翻訳。

モムチル・ミラノフ Момчил Миланов

1986年ソフィア市生まれ。ソフィア大学法学部卒業後、欧州大学院大学にて修士課程取得。ジュネーブ大学博士課程及在籍・教授助手。現在、デビュー作に取り組んでいる。

共催 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部 スラヴ語スラヴ文学/現代文芸論研究室

問い合わせ先 03-5841-3847（スラヴ語スラヴ文学研究室）